WIDEX ALLURE™ フィッティングガイド

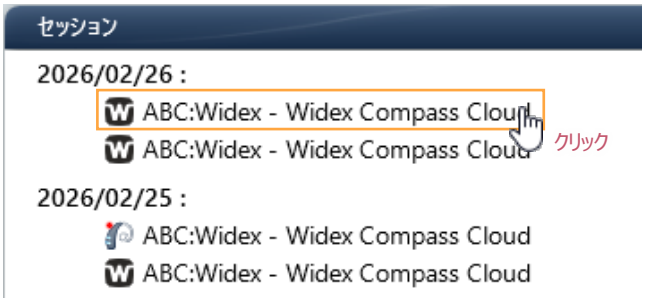
WCC 2.1.0版

※ALLUREはCOMPASS GPSでは調整できません。WIDEX COMPASS CLOUDをお使いください。
Widex Compass Cloud（以下WCC）を起動する前にオージオグラムなど顧客情報を登録します。

1 Noah 4の顧客ブラウザからフィッティングを行う患者を選択し、上部にあるCompass Cloudアイコンをクリックします。



既存セッションがある場合は、セッションをクリックしてWCCを起動することもできます



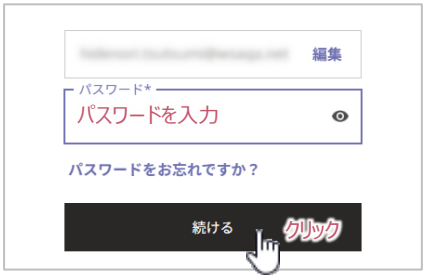
2 WCCゲートウェイが起動し、WCCをブラウザで開きます。



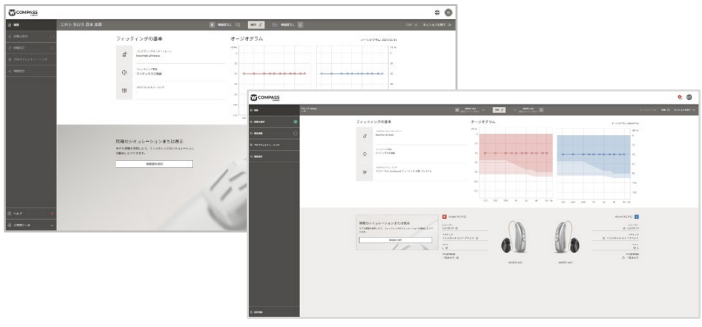
3 サインイン画面が表示されます。登録したメールアドレスを入力し、「続ける」をクリックします。



4 パスワードを入力し、「続ける」をクリックします。



5 データの転送後、WCCのフィッティング画面が表示されます。



6 PCにNoahlink Wirelessを接続し、WCC画面上部中央の「接続 」ボタンをクリックします。



7 フィッティング内容にあわせて、実行するアクションの画像をクリックします。



新しいフィッティングを行う：新規フィッティングを行う場合に選択
補聴器からのデータの読み取り：再調整を行う場合に選択
補聴器へのデータの書き込み：既存のセッションデータを補聴器に書き込む場合に選択

8 補聴器のプッシュボタンを長押しするか、充電器から補聴器を取り出し、補聴器の電源をオンにします。※電源が入ると3分間補聴器がペアリングモードになります。

9 補聴器が検出されたら、補聴器の左右を指定します。
※プッシュボタンを押すと、補聴器の枠が緑色で表示されるので識別に便利です。



※「補聴器へのデータの書き込み」を選択した場合は、補聴器にセッションデータが書き込まれます。

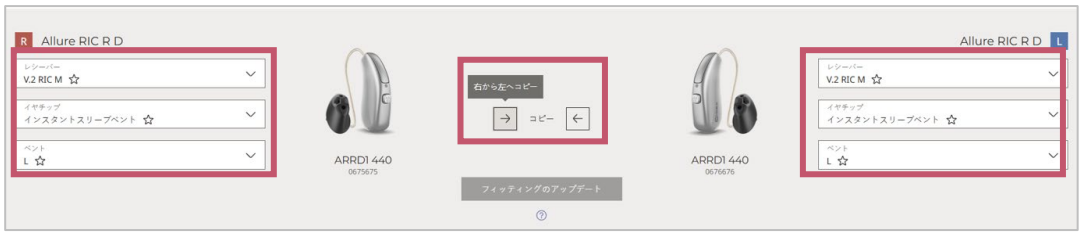
デモ器の場合は、ここで性能レベル（クラス）を指定します。
性能レベルを選択したら、「続ける」をクリックします。



10 「音響の選択」画面が表示されるので、補聴器に取り付けられているレシーバーとイヤチップを選択します。

※コピーボタンで片側の設定をコピーすることができます。

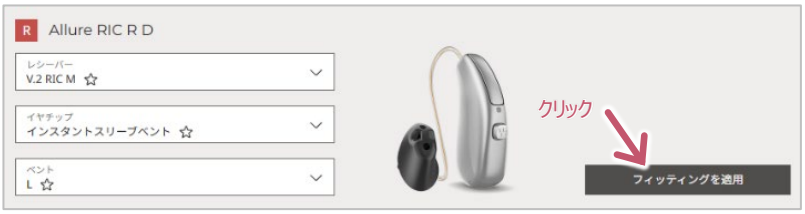
※「補聴器からのデータの読み取り」選択時は補聴器内の設定が、「補聴器へのデータの書き込み」選択時はセッションデータの設定が表示されます。

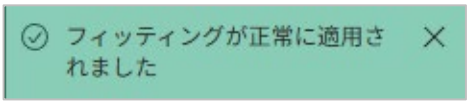


11 選択が終わったら「フィッティングを適用」をクリックします。

フィッティングが正常に適用されると画面右上にメッセージが表示されます。

※オージオグラムに500Hz、1kHz、2kHz、4kHzの閾値のデータが1つでも欠けている場合、「フィッティングを適用」がアクティブになりません。





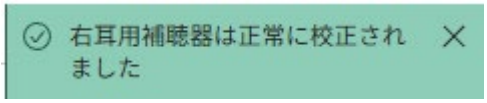
12 「音響の設定」が完了したら、左メニューの「精度調整」に移動します。



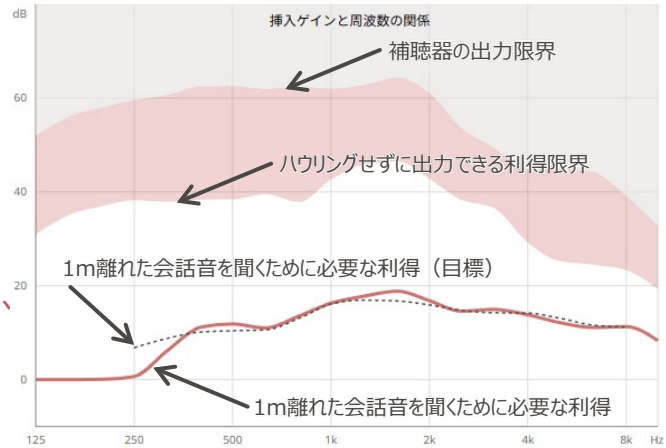
13 「音響校正」を選択し、静かな環境で「右と左」または「右」、「左」を選択し「開始」をクリックして音響校正（フィードバックテスト）を行います。音響校正は片耳で30秒から1分程度で終了します。

※音響校正は実際に補聴器を耳に装着して行ってください。

14 校正が正常に行われると画面右上にメッセージが表示され、グラフの利得限界（アベイラブルゲイン）が更新されます。



※利得限界が目標を大きく下回る場合は、耳栓の種類やサイズ、補聴器の入り具合を見直してください。

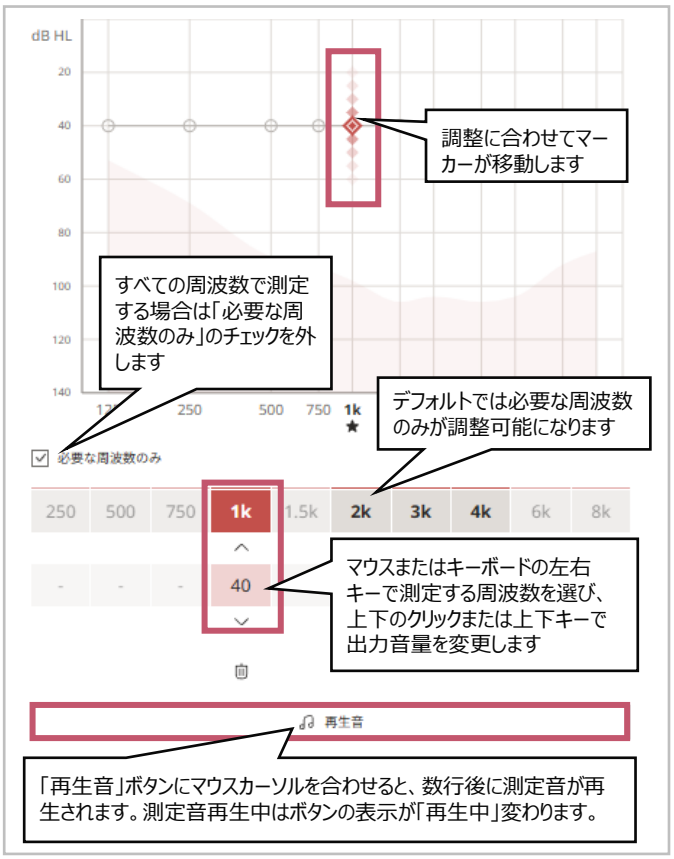


15 続いて「センソグラム」をクリックし、センソグラムの測定を行います。
補聴器が発する測定音を用いて測定するため、耳せんやモールドの効果、外耳道の特性、難聴の程度を考慮した閾値、ゲインが反映されます。
※センソグラムの前に必ず音響校正を行ってください。
※センソグラムは必須ではありませんが、実施することでより精度の高い調整が行えます。

16 オージオグラムの下部にある「開始」をクリックして、測定を開始します。



17 オージオメーター同様に各周波数において、出力音量を上下キーで変化させながら閾値を測定します。

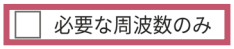


18 測定が終了したら「センソグラムを適用する」をクリックして測定値を保存します。オージオグラムにセンソグラムの閾値が表示されます。両耳装用の場合はもう一方の耳についても測定を行います。



【補足】センソグラムの測定周波数について

・センソグラムでは500、1,000、2,000、3,000、4,000Hzを必須周波数として測定します。
・3,000Hzは外耳道容積差が現れやすく、明瞭性の向上とさらなる個別化が図れます。
・オージオグラムの500Hzの閾値が50dB以上の場合、500Hzの測定が有効となります。
　これはセンソグラム測定をすることでより適切な閾値を取得できるためです。
・オージオグラムの500Hzの閾値が50dBに満たない場合、500Hzの測定は無効となり、500Hz以下はオージオ閾値を使用します。
　これは外部ノイズの影響を受けやすく、正しい測定をすることが困難なためです。

「必要な周波数のみ」のチェックを外すことで、任意の周波数を測定可能となります。 

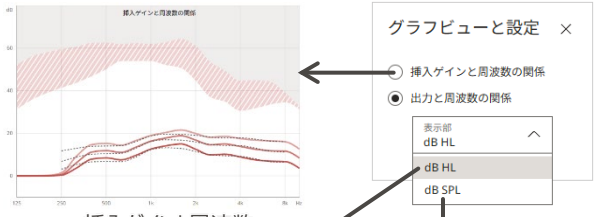
【注意点】
・センソグラムを手動でオージオグラムに合わせる行為（特に低域）は行わないでください。
・低域（500Hz）の閾値が良い場合（50dBHL未満）、500Hzのセンソグラム測定は不要です。
　ゲイン計算にはオージオグラムの値を使用するため、過剰なゲインの心配はありません。
・低域（500Hz）の閾値が悪い（50dBHL以上）場合は、500Hzの測定が必要です。
　フィードバックテスト結果（ベント効果の大小）によって測定音の大きさを加減するため、実測値のままで問題ありません。

19 「精度調整」が完了したら、左メニューの「プログラムとチューニング」に移動します。

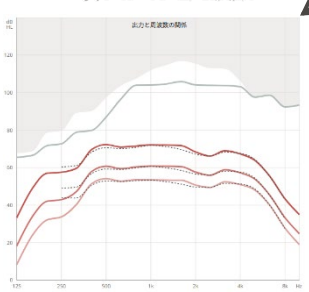


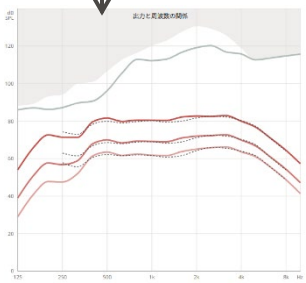
20 「ゲイン」をクリックします。

21 グラフィックエリアに挿入ゲインまたは出力のグラフ、設定エリアにとゲインマトリクスが表示されます。グラフは [ ] スイッチで表示内容の切り替えが可能です。

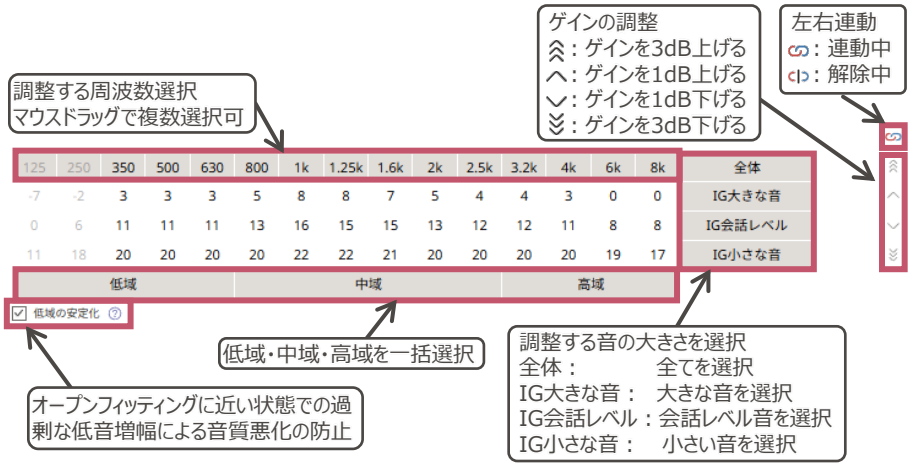


挿入ゲインと周波数


出力と周波数 dB HL


出力と周波数 dB SPL

22 ゲインマトリクスで周波数ごとにゲインを調整します。



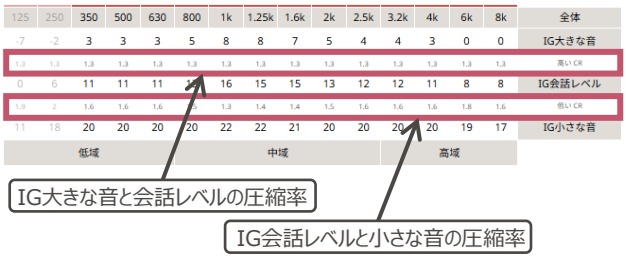
音の大きさの目安

IG大きな音
・かなり大きな音
・近くの会話
・自分の声（低域）

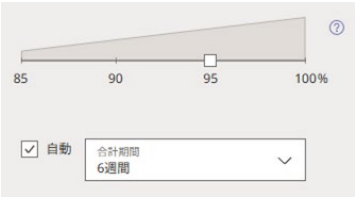
IG会話レベル
・1mほど離れた会話
・テレビの音

IG小さな音
・静かな音の聞こえ方
・静かな場所での物音
・離れた距離での聞こえ方

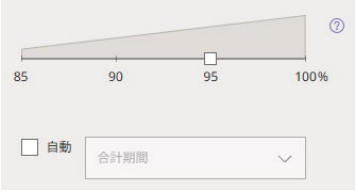
CR スイッチで圧縮率表示のオン/オフが可能です。



23 「順応」メニューでは、補聴器の必要な音の大きさになれるための音量設定を行います。
手動設定は本来の音量の85%、90%、95%、100%の4段階で設定、自動設定は設定した期間に応じた4段階で自動的に音量が大きくする設定がおこなえます。

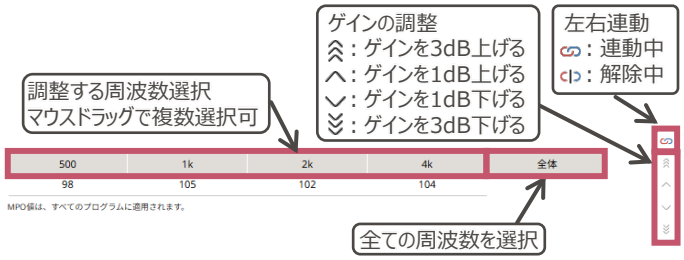


自動設定

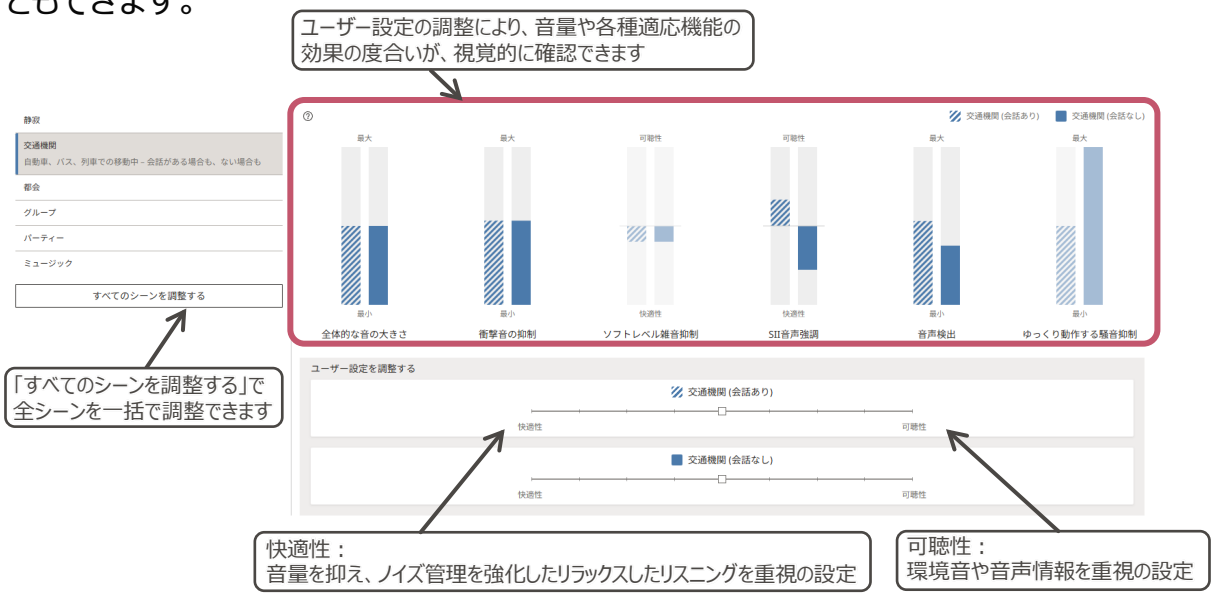


手動設定

24 「MPO」メニューでMPO（最大出力）の設定を行います。表示されたMPO設定パネルで特定の音の大きさで問題を抱えているお客様にあわせてMPO値を変更します。グラフは スイッチで切り替えが可能です。
※MPOの変更は全てのプログラムに反映されます。

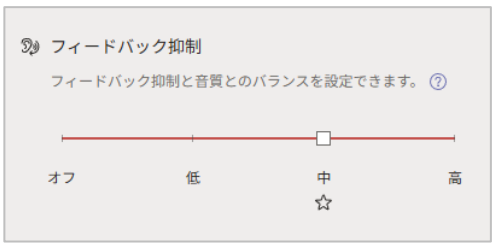


25 「サウンドクラス」メニューで各シーンごとに「快適性」と「可聴性」のバランス調整を行います。データログの結果とお客様の主訴をもとに、個々の聴取嗜好やライフスタイルに合わせることもできます。



26 「設定」でメニューで、各適応機能の設定を行います。

■フィードバック抑制（ハウリング抑制）



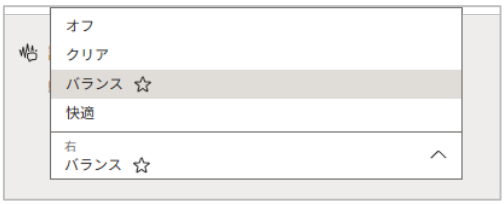
高
通常よりフィードバック抑制を強くかけます。ハウリングがより起こりにくくなりますが、音質が影響を受ける可能性があります。
中
音質とフィードバック抑制のバランスをとります。
低
音質を優先し、弱めにフィードバックを抑制します。
オフ
フィードバック抑制をオフにします。

■マイクモード（指向性）



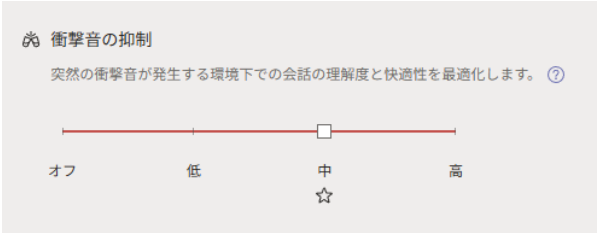
HDロケーター
騒音の高さに合わせてチャンネル毎の指向性が動作します。
デジタルピナ付きHDロケーター（220/110は非対応）
騒音下ではマルチチャンネル環境適応型指向性として動き、静かな環境では耳介効果を擬似的に再現し音の前後方向をわかりやすくします。
後方（220/110は非対応）
常に前や横の音を抑え、後方の音にフォーカスします。
前方
常に横や後ろの音を抑え、前方からの音にフォーカスします。
全方向
補聴器のマイクが無指向性になります

■話し声とノイズモード（騒音制御/スピーチエンハンサーPro）



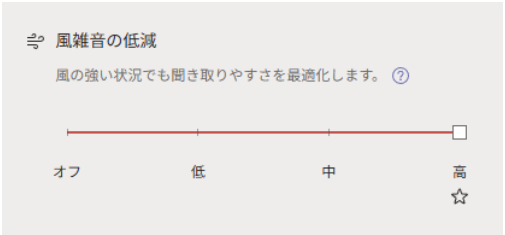
快適（110は非対応）
騒がしい環境下で静かさを重視した動作になります。
バランス
聞き取りやすさと会話へのフォーカスをバランスよく行います。
クリア（220/110は非対応）
騒音下では静かさよりも会話音を優先的にフォーカスします。
オフ
スピーチエンハンサーProをオフにします。

■衝撃音の抑制（トゥルーサウンド ソフトナー）



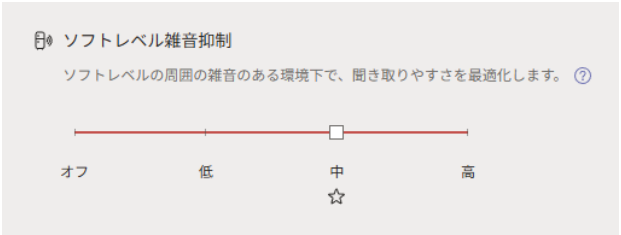
高
衝撃音を強く抑え、大きな音をうるさがる方に向いていますが、会話に影響がでる場合があります。
中
バランスよく衝撃音を抑制します。
低
衝撃音の抑制を少なめに行います。
オフ
トゥルーサウンドソフトナーをオフにします。

■風雑音の低減（スマートウィンドマネージャー）



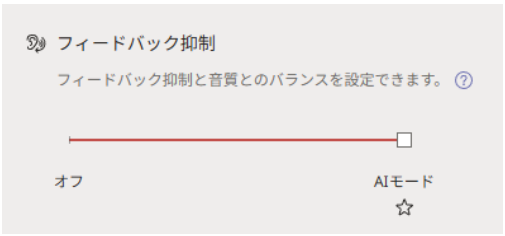
高
風雑音を大幅に軽減します。会話に影響がでる場合があります。
中
自然な音をとらえつつ、バランスよく風雑音を低減します。
低
風雑音の低減を少なめにより多くの音をとらえます。
オフ
スマートウインドマネージャーをオフにします。

■ソフトレベル雑音抑制

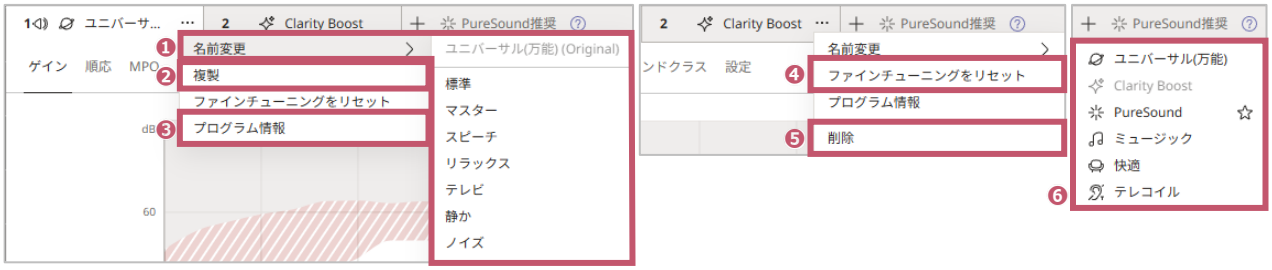


高
小さな定常的な雑音を大幅に軽減します。小さな会話音に影響がでる場合があります。
中
小さな定常的な音を低減します。
低
小さな定常的な音の抑制を少なめに効かせます。
オフ
ソフトレベル雑音抑制をオフにします。

※機能と設定項目は補聴器のクラスで異なります。
※AI RICのClarity Boostの場合、「フィードバック抑制」はAIモードとオフの二択となります。
※AI RICのClarity Boostの場合、「マイクモード」、「話し声とノイズモード」、「風雑音の低減」、「ソフトレベル騒音抑制」はAIモードに固定となります。
※AIモードは、インテリジェントなフィードバック抑制を活用したAIによる音声処理です。



27 プログラムタブで必要に応じてプログラムの追加・削除等を行います。



プログラムタブの「･･･」からプログラムの複製や削除等が行えます。

❶名前変更
リストよりプログラム名を変更できます。選択したプログラム名はスマートスピークに反映されます。

❷複製
設定値を含め同じプログラムを複製します。複製されたプログラム名はオリジナルの名称に枝番が付けられます。
※「Clarity Boost」プログラムは複製できません。

❸プログラム情報
各プログラムの概要を確認できます。

❹ファインチューニングをリセット
ゲイン等の調整値をデフォルトの状態にリセットします。

❺削除
プログラムを削除します。
※デフォルトのユニバーサルプログラムは削除できません。

プログラムタブの「＋」からプログラムの追加が行えます。

❻プログラムの追加
新しいプログラムを追加します。追加されたプログラムにはユニバーサルのゲインの調整値が引き継がれます。
※低域の安定化の設定は引き継がれません。

28 「プログラムとチューニング」の設定が完了したら、左メニューの「機器設定」に移動します。



29 「ユーザーコントロール」メニューでプログラムボタンおよび音量コントロールボタンの機能を設定します。

短押し：ボタンを短く押したときの動作を設定します。
長押し：ボタンを1秒以上押したときの動作を設定します。
デフォルトでは*印の機能が設定されます。
※モデルによりボタンと設定できる内容が異なります。

ALLURE AI RIC R D「ARRD2」
ALLURE RIC R D「ARRD1」
プログラムボタン
短押し：プログラム変更* / 音量コントロール / 機能なし
長押し：プログラム変更 / ミュート/ミュート解除 / 機能なし*

ALLURE ITE R D「ACRD1」
プログラムボタン
短押し：プログラム変更* / 音量コントロール / 機能なし
長押し：プログラム変更 / ミュート/ミュート解除 / 機能なし*

ALLURE BTE R D「ABRD1」
プログラムボタン
短押し：プログラム変更* / 機能なし
長押し：ミュート/ミュート解除 / 機能なし*

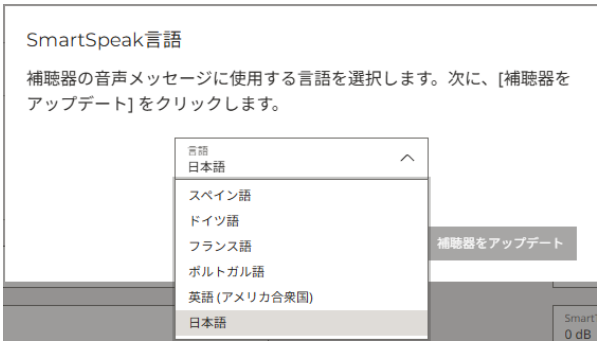
音量コントロールボタン
短押し：音量コントロール* / 機能なし
長押し：ミュート/ミュート解除 / 機能なし*
※両耳使用の場合、音量コントロールボタンは左右独立した設定が行えます。



30 「聴覚インジケータ」メニューで補聴器からのお知らせ音の設定を行います。

■SmartSpeak言語

SmartSpeak選択時の言語を設定します。



■インジケータとデモ

プログラム変更
プログラム変更時のお知らせ音のオン/オフ、およびSmartTone/SmartSpeakの設定を設定します。

音声コントロールとデモ
プログラム変更時のお知らせ音（SmartTone）のオン/オフを設定します。

起動中
プログラム変更時のお知らせ音のオン/オフ、およびSmartTone/SmartSpeakの設定を設定します。

バッテリー残量低下の警告
プログラム変更時のお知らせ音のオン/オフ、およびSmartTone/SmartSpeakの設定を設定します。

スピーカーアイコンをクリックすると、補聴器から設定したお知らせ音が再生されます。

■設定

SmartToneおよびSmartSpeakの再生音量とSmartToneの音の高さをプルダウンリストから選択、設定します。

31 すべての調整が終わったら、右上の「セッションを終了」をクリックます。



セッション終了のウィンドウが表示されるので、必要に応じて「保存して終了」をクリックしてセッションを保存します。



ALLUREのフィッティングは以上です。

[Tips] デモ器のクラス変更

1 左メニューの「概要」を選択します。



2 補聴器情報内の「↑↓ 性能レベル」をクリックします。



3 性能レベル選択ウィンドウが表示されるので、変更したい性能レベル（クラス）を選択し、「続ける」をクリックします。



4 性能レベルの変更内容が表示されるので、問題が無ければ「変更」をクリックします。
※設定内容を維持しつつ、クラス間の差異に合わせた変更が行われます。



5 10秒ほどで性能レベルが変更されます。ウィンドウが閉じれば完了です。

[Tips] 既存セッションデータの補聴器への書き込み

同一フォームファクターに限り、設定データの転送が可能です。
※製品間、デモ器間、製品とデモ器間でセッションデータの書き込みが可能です。
※AI RICとRIC間の場合、それぞれのセッションデータの書き込みが可能です。

1 Noah 4から書き込みを行いたいセッションデータを選択して、WCCを起動します。



2 「概要」メニューを選択し、補聴器情報内の「接続 」をクリックします。



3 「補聴器へのデータの書き込み」をクリックします。



4 データ書き込み先の補聴器をペアリングモードにしてWCCに接続します。

5 データを書き込む補聴器の左右を選択し、「データの書き込み」をクリックします。



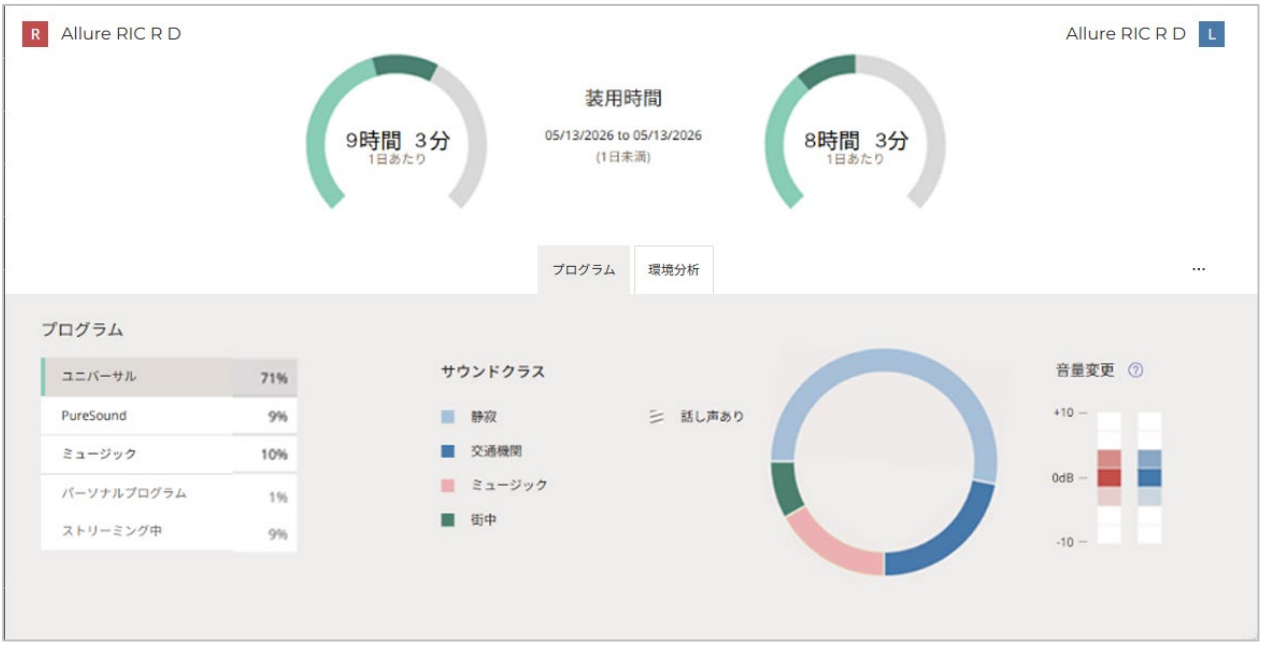
[Tips] データログの活用

補聴器を装用している間、装用者は説明しにくい体験や不満を抱えることがあります。
データログは、装用者が補聴器をどのように使用したか、補聴器をどのように操作したか、
またどのような音環境下で使用したかについて客観的なデータを提供します。
装用時間とさまざまな使用環境を分析することで、装用者と補聴器の使用状況に関す
る重要な情報を得られます。これは、装用者のフィッティングを最適化するのに役立ちます。

1 左メニューの「データロギング」を選択します。



2 「プログラム」タブを選択すると、前回調整時からの補聴器の使用状況が表示されます。



装用時間
左右それぞれの総装用時間、および各プログラムが使用された割合がグラフ表示されます。

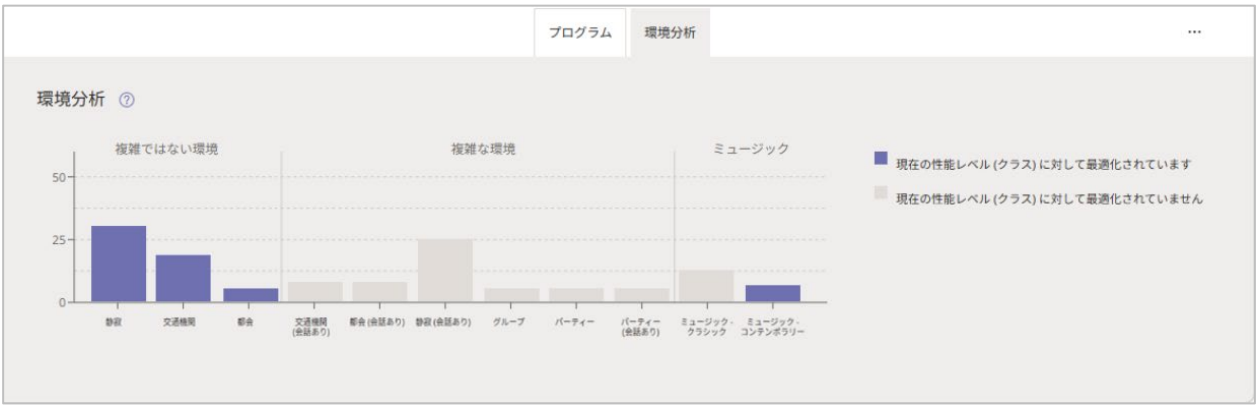
プログラム
各プログラムが使用された割合が%表示されます。

サウンドクラス
装用時に使用されたサウンドクラスの各シーンの割合がグラフ表示されます。

音量変更
各プログラムでの音量変更の使用状況を表示します。使用頻度が高い音量は色が濃く表示されます。

[Tips] データログの活用

3 「環境分析」タブを選択すると、サウンドクラスの各シーンの適用状況がグラフ表示されます。



補聴器によって検出 されたシーンと、それぞれのシーンで 過ごした時間がグラフ表示されます。これにより、装用者の日々の聴取状況のを把握できます。

紫のバー■は、使用中の補聴器の性能レベルで対応が最適化されている環境を示します。
灰色のバー□は、検出された環境のうち、現在の性能レベルでは最適化されていない ものを示します。灰色のバーが高く表示されている場合は、より高い性能レベルが適している可能性があります。

4 「性能レベルの概要 」をクリックすると、前回調整時からの補聴器の使用状況が表示されます。



